

国産石材説明書

石種名：万成石(まんなりいし)

項目	説明文	エピソード
岩石種類	角閃石黒雲母花崗岩(深成岩)「桜御影」	■白亜紀後期(7700~8800万年前)
年間採石量	採掘可能量 20,000才以上/年 出荷量6~8000才程度/年	■圧縮強度15,200N/cm ² ■吸水率0,17%
有史上の歴史	天保年間(1830~1843)から始まったと云われている。しかし、自家用石材のみの採石でした。本格的に採石され始めたのは、明治21年(1888)頃からと云われている。昭和の終わり頃から平成の初め頃には、採石業者9社11丁場とありましたが、現在採石している会社は、弊社を含め2社2丁場となっている。	■「鉱物」 ●淡紅色(ピンク)→カリ長石 ●白→斜長石 ●灰色→石英 ●黒→雲母 等々で構成された完晶質、中粒の岩石。
本格的な採石の歴史	弊社(武田石材)は昭和49年から認可を受け、石材採掘業に参入する。平成18年、万成石での採石歴史上おそらく過去最高の大きさの約3万才の玉石にあたる。	■「成分表」(分析値) ●SiO ₂ →71.55% ●Al ₂ O ₃ →14.06% ●K ₂ O→4.13% ●Na ₂ O→3.94% ●CaO→2.14% ●FeO→1.58% 他にも、H ₂ O、MgO、Fe ₂ O ₃ 、TiO ₂
採石場のピーク	昭和の終わり頃、万成石の採掘業者は9社11丁場とピーク時にあり、建築材・墓石材と各採掘元から全国に多くの石を供給している。全丁場で80,000才程度/年、出荷されたと思われる。弊社もこの頃は年間で20,000才程度を全国に出荷している。	■採石場所 JR岡山駅より西へ5* ₅ の地にあり、交通のアクセスの良さもあって、丁場見学の人気も高い。
石の持つ「いわく」 「云われ」	「桜御影」と云われ、国産桜御影といえ、まず「万成石」の名が出る。また、万成石は「多くの著名人・芸術家に愛される石」とも言われている。	■淡紅色の華やいだ風合いは、美しく品格があり高級感を生み出します。また、あたたかみとかわいらしさを持ち合わせた万成石は日本の銘石のひとつとしてブランド化されています。用途は、墓石だけに留まらず、建築材・灯籠・モニュメントなど幅広く使われています。和風・洋風、どちらでも好まれる石材です。
有名・著名な建造物 (有名人のお墓)	●「墓石」 石原裕次郎・イサムノグチ・吉田茂・小淵恵三・池田隼人・横山やすし・本田美奈子・長谷川町子・岡山藩主・長岡藩主・朝倉文夫・堀辰雄・高村光太郎・吉川英治・柳田國男・・・等々 ■「建築物」 新宿伊勢丹・聖徳記念絵画館・銀座和光ビル・明治神宮・岡山県立美術館・岡山大学・岡山県立大学・岡山駅・・・等々	▲イサムノグチがパリのユネスコ本部の彫刻を万成石で制作する。他にも多くの芸術家たちが万成石を使用した作品・モニュメントを作っている。また、自然石の切った断面に会社の社名や地域の名所を入れたり環境石材としての用途も多い。また、元首相等の銅像の台座にも非常に多く使われている。
新名物	●2010年8月4日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑にシベリア抑留者慰霊碑として、約8m ³ の大きさの万成石の慰霊碑が2個置かれる。 →この時、原石の重さは24tと27t、大きさは2個とも約6尺角のサイコロであった。(2010年4月)	